

竹ノ塚駅付近の連続立体交差事業が、19年度新規着工準備箇所として採択されました

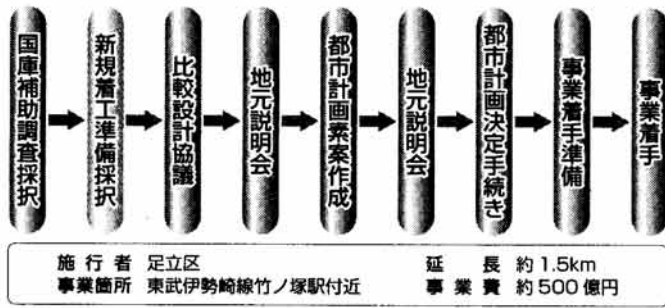
17年3月15日に起きた、東武伊勢崎線竹ノ塚駅の踏切事故を踏まえ、区は踏切解消に向け、抜本対策である鉄道立体化に取り組んでいます。

17年6月、国土交通省、東京都、鉄道事業者および区が「竹ノ塚駅付近道路・鉄道立体化検討会」を設置し、この地区にふさわしい立体化のあり方などを検討してきました。

この検討会や立体化に向けての調査成果を踏まえ、区は、竹ノ塚駅付近の鉄道立体化が技術的に可能であると共に、まちづくりの面からも最適であると判断し、18年11月9日、国土交通省へ連続立体交差事業の新規着工準備採択の要望書を提出しました。その結果、19年度新規着工準備箇所として採択され、いよいよ事業化に向けた準備期間に入ります。

新規着工準備採択から事業着手まで(図5)は、他の事例からみて、最短でも概ね5年程度掛かる見込みですが、一日も早い鉄道高架化の実現に向けて、精力的に進めていきます。

図5 竹ノ塚駅付近における連続立体交差事業着手までの流れ



◆竹ノ塚駅周辺地区まちづくり連絡会が発足
連続立体交差事業を行う際、周辺地区のまちづくりの検討を合わせて行うことは必要不可欠なことです。

そこで、地元の町会、自治会、商店街、大規模小売店舗などの代表者やまちづくり推進委員などで作る「竹ノ塚駅周辺地区まちづくり連絡会」を

区まちづくり連絡会」を発足しました。今後の活動状況などは、「まちづくりニュース」でお知らせします。

◆竹ノ塚駅付近鉄道高架化促進連絡協議会が、国土交通省などに要望活動

竹ノ塚駅付近鉄道高架化促進連絡協議会(会長 鈴木恒年区長)は、冬柴国土交通大臣、横山東京都副知事へ、鉄道の高架化早期実現に向けた支援を求め、要望書を手渡しました。

また、東武鉄道株式会社、東京地下鉄株式会社にも、鉄道事業者として積極的に取り組むことや、協力を要望しました。協議会は、鉄道高架化の実現まで、継続して要望活動などを行ってまいります。

献花式が行われました

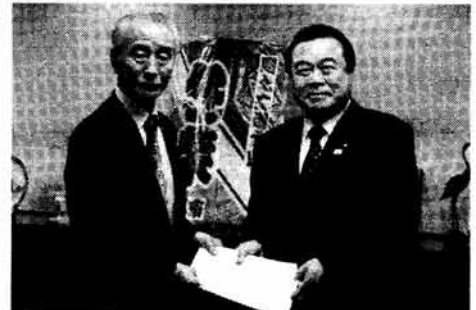
3月15日、事故現場となった踏切の東側道路で、竹ノ塚駅付近鉄道高架化促進連絡協議会主催の献花式が行われました。

献花式には、亡くなられた方の遺族のほか、主催した協議会会長の鈴木区長、協議会関係者や地元住民などが参列。黙とうに続き、献花を行いました。



▲献花を行う鈴木区長

「竹ノ塚駅付近鉄道立体化」のお問い合わせは、市街地整備・立体化推進室(鉄道立体化)へ
☎(38880)5484



▲鈴木区長から冬柴大臣に要望書を提出